

令和2年11月分（6件）

【資源ゴミの回収についてお願い】

内容	はじめまして、市長さん わたしは今年引っ越してきました。とても住みやすい良いところだと思っています。ありがとうございます。 1つだけ今気になることがあり、お願いをしたく手紙を書かせて頂きます。それは毎週の資源ゴミの回収についてです。 毎回、瓶は瓶で、缶は缶で、ペットボトルはペットボトルで袋に入れて指定のゴミ置きに置いていますが、袋がもったいないしエコでは無いと思います。 以前住んでいた場所では、いずれもゴミ置き場にその日出されケースやネットに入れるシステムになっていて、業者さんも回収しやすく大変良いと感じていました。 どうか館山市もそのようなシステムに変えて頂けないものなのでしょうか。是非ご検討ください。 よろしくお願いします。 【R2. 11. 2 受理】
回答	ご提案いただきました資源ごみの回収方法についてですが、以前お住まいであった場所のごみの分別方法を確認したところ、ご指摘のとおり、びん・缶は専用コンテナに入れ、ペットボトルは専用ネットに入れることとされておりました。 資源ごみの搬出方法について、近隣都県の事例を見ますと、① 透明あるいは半透明の袋に入れる ② 専用コンテナ等に入れる ③ 有料のごみ指定袋に入れると、概ね3つの方法を確認できます。 確かに、専用コンテナ等を使用し、ごみの搬出にビニール袋を使用しなくなることで、ごみの総量を削減する一定の効果があると考えられます。 しかしながら、当市のごみ搬出場所は市内に1,600箇所以上存在しており、その設置事情も各町内会等により様々です。搬出場所の「適正な管理」は長年の課題であり、その中で館山市は、びん・缶等の資源ごみを、中身の見える透明あるいは半透明の袋に入れて出すというルールとし、定着しています。 また、コンテナやネットを設置することで、道路交通の安全を阻害する可能性や、設置するスペースが確保できないごみ搬出場所も存在し、ごみの分別ルールを変更することは大変厳しい状況です。 今後とも、きれいで清潔な住環境を保つために、ご理解とご協力をいただけますよう、よろしくお願いいたします。 【R2. 11. 6 回答】

【館山市の次の一手】

内容	まずは、IT、オンライン環境(市内 Wi-Fi 無料化など)を完璧に整備して、遊休不動産を利用した企業、個人事業の誘致。働きやすい環境の館山市で事業が増えれば移住者、更に雇用も生まれます！今このタイミングを逃す手はない！と思います。 もうひとつは、海岸の整備。道の駅的な器はもういらない(今ある物を盛り上げれば十分)！と思います。廃屋の撤去は最優先、そして入れ墨(反社会的勢力に見える)の排除。イメージアップは何より大事です！ 観光客よりも移住者の誘致を！観光は企業が勝手にやってくれます。儲からない(企業が乗らない)観光はお客様に求められていないもの。行政が無理にやるものではありません。 どうか、大事な血税、基金をムダにしないでください。
----	---

	【R2. 11. 4 受理】
回答	館山市としましては昨年の台風被害、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をふまえ、今まさに、ピンチをチャンスに変える絶好の機会であると考えています。 遊休不動産の利活用につきましては、まちづくりの担い手となる人材の輩出及び遊休不動産の活用を目指し、リノベーションまちづくり推進事業を実施しており、まちなかの空き店舗や空き家などの遊休不動産について、起業、創業意欲のある人材が新しい使い方により利活用を図ることでまちを再生する民間主導の公民連携事業を実施しています。 また、移住事業につきましては、新型コロナウイルスの感染が拡大している状況をふまえ、オンラインを活用し、移住に関する仕事や生活の相談、実際に移住を経験された方や二拠点生活を行っている方との移住イベント事業などを拡充し、情報を発信することで移住者が求めるライフスタイルがかなえられるまちとして、さらに移住定住促進に向けた施策を行っています。 企業誘致推進事業としましては、IT企業やベンチャー企業などを対象に実施している企業合宿の「リビングエニウェア事業」においても都市部の方に館山でのテレワークを体験していただき、地域の課題を共に考え、館山に深く関わっていただくことにより、二拠点居住や移住の促進にもつなげていきたいと考えています。 なお、海岸の整備やイメージアップに繋がる利用マナーの向上等につきましては、引き続き海岸管理者である千葉県などの関係機関と共に取り組んでいきます。 【R2. 11. 16 回答】

【城山公園街路灯の点灯について】

内容	早朝、健康維持のためウォーキングを行っています。 この季節になると、坂の入口付近が真っ暗になり、防犯上とても危険を感じます。そこで提案ですが、モニュメント（石塔）を照らしている電力を南側に位置する街路灯（歩道上）に変えていただければ360度照らし明るくなり安心感を与えたいと思います。以上切に希望します。 【R2. 11. 12 受理】
回答	城山公園の街路灯の点灯時間については、日没から21時までとなっており、早朝は点灯する設定にはなっていませんが、街路について暗いところのご指摘をいただいておりますので、現在、工事費や電気代などの費用面や、技術的に可能かどうかを含め検討しております。 また、令和元年12月から、城山公園の管理については、指定管理者である株式会社塚原緑地研究所が行っていますので、指定管理者とも協議し対応してまいります。 【R2. 11. 19 回答】

【PCR 検査を寄付したいのですが】

内容	PCR 検査を寄付したいのですが 受け取ってもらえますか ソフトバンクの PCR 検査が 2000 円/人 でできます 消費税 送料等は別途ですが 11 万円ほどで 50 人の検査が受けられます しかも 唾液検査なので保健所、病院に行く必要はありません 料金が安いので市で責任者を決めていただき 責任者のもとに 検査をします 検査費は私の寄付で支払います 市民課、税務課をはじめ非常に危険な仕事をされている方に 少しでも気持ちの安心を得られる検査をしてもらいたいと思います 詳しくは「ソフトバンク PCR 検査」で検索してください
-----------	--

	わたしも 検査の段取りに微力ながら協力いたします お金だけの寄付ではなく PCR 検査をしてほしいと思います まず 市役所から 初めてもらいたいと 思います 【R2. 11. 16 受理】
回答	PCR検査については、自分が感染していないことを知ることによって安心感にもつながりますし、無症状の感染者を把握することで、感染を広げるリスクの解消に効果はあると考えます。 しかしながら、検査を実施し、その時点で陰性であったとしても、その後の感染リスクがなくなるものではなく、常に感染の危険性があること、また、PCR検査の感度は70%程度であり、約3割は感染しているのに「陰性」という結果が出ることから、検査結果が陰性であったからといって安心できるものではありません。 さらに、日頃から不特定多数の市民の皆様と接する部署の職員は多数いることから、検査対象とする職員の線引きの問題もあります。 このようなことから、ご提案いただきました市職員に対するPCR検査の実施については、検査の限界や対象職員の絞り込み等の問題があり、実施は難しいと考えます。 なお、来庁される市民の皆様に対しましては、本館入口での検温、手指消毒、マスクの着用をお願いしており、また、窓口業務のある部署のカウンターには飛沫防止シートを設置したりと、できる限りの感染予防対策を実施しております。 そのため、今回のご提案については、職員のPCR検査のための寄付としてではなく、市民の皆様への感染予防対策のための寄付としてでもよろしいということであれば是非、活用させていただきたいと考えます。 【R2. 11. 27 回答】

【船形漁港老朽化に伴う改修工事について】

内容	船形漁港が、来年度改修工事が行われると聞きました。以前程では無いにせよ、相変わらず嫌な臭いの中の毎日です。改築工事の際には、此方側住宅地は開放せず臭いが来ないようにしてください。地元住人に迷惑がかからぬよう配慮した漁港改修事業があります。「漁港別 整備平面図(その1)」で検索して下さい。漁港背後集落区域に対し悪臭や海底海水の汚れに対し評価アンケートを行っています。改修工事を期にきちんと向き合い、私達近隣住民の日々の生活を守って頂きたいです。 【R2. 11. 18 受理】
回答	現在、館山漁業協同組合では、老朽化した荷捌き施設の改修について令和4年度に着工する予定で、計画を進めています。 この新たな荷捌き施設の改修につきましては、今後、具体的な設計を行う予定となっていますので、館山市としましては、建設に際し、悪臭防止など周辺への生活環境に配慮した施設となるよう、館山漁業協同組合へ要望していきたいと考えております。 【R2. 11. 26 回答】

【コロナも怖いけど、台風はもっと怖い！】

内容	2019年9月に 台風に遭遇しました。 この地区の人々が口をそろえて言うことは、「毎年台風は来るけどこんな台風は初めてだ」毎年台風は来るので、同じように対策を講じ通過するのを待っていたが、今までの経験が通用しない台風だったため、一夜明けたら風景が一変していた。 今はコロナ対策で大変でしょうが、コロナ終息までには時間がかかります。一人一人の
----	---

行動と体調管理、特効薬（ワクチン等）の開発を待つのみです。でも台風は人の努力ではどうにもなりません。海水の温度が上昇して大きな台風ができやすく、今年の 15 号と同規模以上の台風が来る可能性はあると思います。

甚大な被害から学んだ事は、沢山あったと思います。それを次の台風の時に活かすよう、問題点をあげ（総括をして）対策をお考えになっているとは思いますが、未だ末端（市民）には伝わってきていません。ハザードマップが配布されましたがそれが対策なのでしょうか・・・

市議の方々の災害対策についてのお考えを紙面で拝見しましたが、絵に描いた餅のようにしか感じられません。せっかく良いお考えを持っているのですからもっと積極的に（市民の代表なのですから）市政に活かしていただきたいと思います。

復旧作業をしながら疑問に思ったことや気づいたことが幾つかありました。私なりに問題点と対応策（こうやってくれると嬉しいな）を考えてみました。

問題点

- ・情報の伝達不足
- ・災害ゴミの対処
- ・ボランティアの活用

対応策

行政の対応

新たな災害対策本部の設置と、15 号で学んだ事を基に災害後の諸々の問題をあげ、その対応策と新しいマニュアルの作成、

- ・各課との連携
＝横のつながりを密に（必須）
- ・避難所の設置と地域の年齢層を考慮しての物資の備蓄
＝床にブルーシートだけでは高齢者はきつい
- ・瓦礫収集の場所の明記
＝二転三転しないように
- ・ボランティアセンターの役割と指示
＝NPO 法人に頼るのではなく、社協が中心に指示
- ・市民への丁寧な情報の伝達
＝各家庭へ防災無線（ラジオ）、広報車や拡声器を使って
- ・各自治会等への指導、連携
＝新しい組織図、これからの災害に備えての研修
- ・市民への指導
＝災害に備えての日頃の心得や各家庭の備蓄等

地域の対応

地区長同士の連携と区の役割分担（長だけでなく地域全員で動く）

- ・自治会、各地区等の住民の把握（一人で動けるか等）
＝お年寄りの多い地区では必要
- ・被害状況の把握と社協との連携
＝ボランティアが入ってすぐ活動できるよう
- ・防災倉庫の備蓄品の確認
＝台風対策も考慮して
- ・ボランティア受入の受援力
＝助けを受ける側の心構え

	各家庭の日頃の備え ・養生・布テープ、段ボール・合板（窓サイズ）、 ＝台風情報が出た後では、もう売り切れている ・懐中電灯、ランタン、乾電池 ＝わかる場所に置いておく ・飛散防止フィルムを張っておく ＝雨戸がない窓の対応 ・カセットコンロ・ボンベ ＝オール電化の家は必須 ・食料（ご飯、カップラーメン、レトルトのカレー等） 保冷剤（停電した時は少しの間冷蔵庫の代わりになる） 水（ペットボトル）、携帯の充電器バッテリー、ラジオ 素人なりに、考えられることを書いてみました。 これらは行政だけではできません。市民も今までの固定概念にとらわれず、これから先の災害に備えてやるべき事をしなければ同じ繰り返しになってしまいます。何をどうするのか最初の一步を行政の指導（行政からのお知らせ）で行い、市民と共有することでより迅速に災害後の対応ができるのではないのでしょうか。 市民の目線に立った行政の「みえる化」を行っていただきたいと思います。館山市は何もしてくれないとか、市の職員はやる気がないよとか、失礼ですがよく耳にします。私が以前住んでいたところから比べると、緊張感が足りないように市役所に行って感じました。 「市民の税金で給料をもらっているので、その分だけは働かなければ」という、自覚を持って市民の立場に立って、仕事をしていてもらいたいものです。 大きな災害に遭遇して、その後の事が全く見えてこなく不安で、失礼を承知で手紙を書きました。 9月になればまた台風はやってきます、市（行政）はこの様に考えて行動しますという事を市民に示し安心させてください。 よろしくお願いいたします。 【R2. 11. 30 受理】
回答	館山市としては、昨年の台風災害を踏まえた検証については、各町内会からの意見聴取や全職員を対象としたアンケート調査等を実施し、現在、これらの取りまとめを行っているところです。 なお、昨年の台風被災における課題としては、様々な観点が明らかになりましたので、これらをもとに、各種マニュアル等の改訂を順次進めています。 今後は、町内会や自主防災組織との連携強化をふまえた防災対策を検討するなど、地域全体で防災力を高めていきたいと考えています。 次に、災害ゴミの対処についてですが、昨年の台風では、お住まいの地区をはじめ、市内全域で大量の災害廃棄物が発生しました。市内全域に及ぶ台風被害による大量の災害廃棄物の発生は初めてのことでしたが、当時は、国・県、全国の自治体からの助言や支援を得て、日々起こる数々の困難事案の一つ一つ対処してまいりました。この対応に市では、高齢者など、自力で災害廃棄物を仮置場に搬入ができない方に配慮し、近隣自治体では行っていない災害廃棄物の個別回収を実施するなど、あらゆる手段を講じて災害廃棄物の回収に当たりました。 また、特に富崎地区では、災害廃棄物の集積が増大したことから、専門知識を有する廃棄物事業者を現地に派遣し、集中的に災害廃棄物の除去・解消を図りました。

その後の災害廃棄物の状況ですが、台風直後から発生した災害廃棄物につきましては、令和2年3月までに処理を完了し、現在は、仮置場に集積されている被災家屋の解体材の分別と適正処理を進め、令和3年3月までの事業完結に向け取り組んでいるところで

す。

ご指摘されますように、近年、全国各地で自然災害が頻発化・激甚化する状況にあり、いつどこで起こるか予測ができない状況も踏まえ、今回の台風災害により発生した災害廃棄物の対応を通して初めて得られた経験をこれからの災害廃棄物対策への備えとする

とともに、災害廃棄物処理計画の策定などにつなげ活かしてまいりたいと思います。

最後に、ボランティアの活用についてですが、まず、災害ボランティアセンターは館山市が設置し、社会福祉協議会に運営を依頼する形となります。

今回の台風被害を受けて、館山市と社会福祉協議会の間で、災害ボランティアセンターに係る協定を締結し、機能強化を図りました。

災害復旧・ボランティア活動においては、ボランティアだけではなく、全ての方がそれぞれに協力し合い、復旧に当たる必要があります。

また、今回のような、市全体に被害の出る大規模災害においては、館山市社会福祉協議会の人員だけでは、全てをまかなうことは困難であり、災害ボランティアセンターの運営においては、NPO法人・ボランティア団体と連携・協力し、運営していくことが必要と考えています。

今後も社会福祉協議会をはじめとした各種団体と連携を強化し、災害対応に取り組んでまいりますのでご理解ご協力いただきますようお願い申し上げます。

【R2.12.10 回答】